

通級指導教室における指導の拡充の取組について

1 特別支援教育の対象児童生徒数の現状

通常学級

特別支援学級

↓

通級指導教室

	小学校	中学校	小計	割合
全児童生徒数	9912名	5159名	15071名	---
特別支援学級在籍児童生徒数	532名	188名	720名	4.8%
通級指導を受ける児童生徒数	156名	60名	216名	1.4%

※ 通級指導を受ける児童生徒数（令和5年9月1日時点）

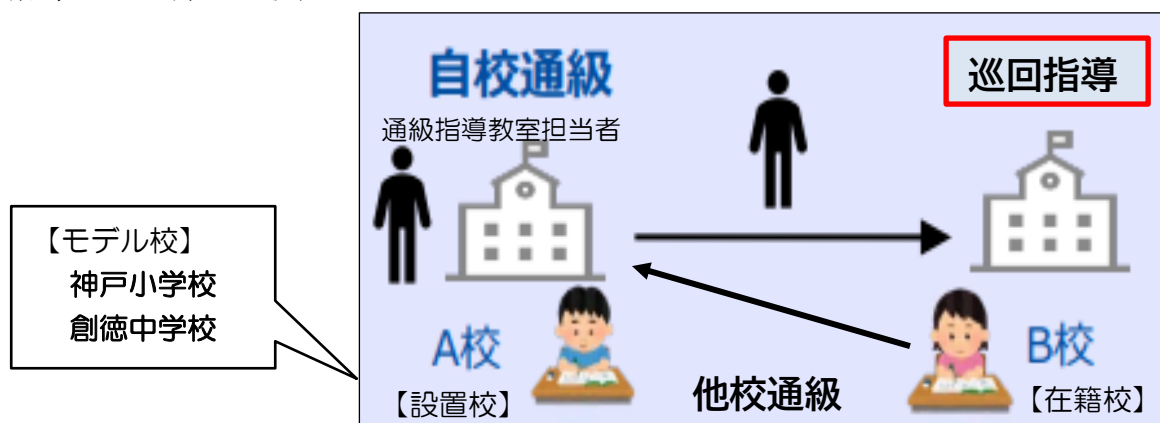
※ 特別支援学級在籍児童生徒数（令和5年5月1日時点）

2 通級指導教室の取組状況

(1) 通級指導の形態

- ・ 自校通級（自校に通級指導教室が設置されており，自校で通級指導を受ける）
- ・ 他校通級（他校に保護者が送迎し，通級指導を受ける）
- ・ 巡回指導（通級指導教室担当者が児童生徒の在籍校に行き，通級指導を受ける）

(2) 巡回指導による新たな取組



(3) 通級指導教室の教室数等

種別	学校名【設置校】
言語（3）	玉垣小学校
	石薬師小学校
	千代崎中学校
難聴（1）	旭が丘小学校
発達障がい等（5）	神戸小学校（令和5年度 巡回指導モデル校）
	飯野小学校
	稲生小学校（令和5年度 新設）
	創徳中学校（令和5年度 巡回指導モデル校）
	神戸中学校（令和5年度 新設）

設置校数

【小学校】

市内30校の内6校

【中学校】

市内10校の内3校

(裏面へ)

3 通級指導の成果と課題

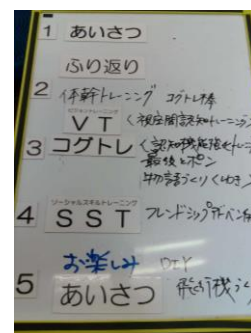
(1) 成果

【全体】

- ・通級指導教室の新設により、通級指導希望があるが指導を受けない児童生徒が減少した。
- ・通級指導教室の新設により、他校通級から自校通級に変更できた児童生徒が多数おり、児童生徒、保護者の負担が減った。

【巡回指導】

- ・保護者の送迎の負担が軽減されたことから、通級指導教室での指導が受けやすくなった。
- ・自校通級のため、慣れた環境で安心して指導を受けることができた。
- ・対象児童の支援会議に、通級指導教室担当者が参加することが可能となった。
- ・通級指導教室担当者が、対象児童について在籍校と情報共有を図ることができ、児童理解につながった。また、その情報を基に保護者と話し合うことができた。



【授業の見通しを明示】



【学習の様子】

(2) 課題

【全体】

- ・通級指導教室数が少なく、通級指導の希望者が円滑に指導を受けない場合がある。
- ・個別指導、少人数指導の適切な運用を行い、通級指導の希望者のニーズに応えられる体制づくりを行っていく必要がある。
- ・指導者の育成、資質向上が喫緊の課題である。

【巡回指導】

- ・巡回指導を行うための教室の確保や教材の充実等の環境整備が必要である。
- ・中学校では、巡回指導を受ける生徒は人目を気にする傾向がある。

4 通級指導教室に係る事務局の今後の方向性

- ・特別支援教育コーディネーターと連携し、通級指導教室の周知・充実を図り、市内全校を対象に児童生徒に適切な支援を講じていく。
- ・義務標準法の改正に伴い、指導を受ける児童生徒数に応じた教室数の設置要望を行っていく。
- ・モデル校での取組を検証し、巡回指導の対象校の拡大を図る。